

体育教員を志望する学生が抱く体育教員のイメージと理想とする体育教員像について

The image of a physical education teacher and the ideal image of a physical education teacher held by students who want to become physical education teachers

井上 雅勝¹ 粟木 一博²
Masakatsu Inoue, Kazuhiro Awaki

要旨：本研究は、仙台大学における学生が抱く体育教員の印象と理想とする体育教員像を明らかにすることによって、教員になるためにどのような養成方法が望ましいのかを検討するものである。対象は本学で「保健体育科教育論Ⅰ」を履修している学生で、Webアンケートを実施した。体育教員に対する印象と理想とする体育教員像には違いがあり、「現実の体育教員の印象」は、「厳しい」とか「運動能力が高い」など教員の資質に関するイメージが主となり、「理想とする体育教員像」は、授業のマジメントや体育の専門性、人間関係の構築に関する教員の授業への取り組み姿勢などが反映されるようである。体育教員の養成に当たっては、強く教員を志望させることが重要であり、その次に今日的な課題解決に対応する実践的な指導力や専門性を育成していくことが必要となる。

キーワード：体育教員志望、体育教員の印象、理想とする体育教員像、保健体育科教育論
Aspiring Physical Education Teacher, Image of Physical Education Teacher, Ideal Image of a Physical Education Teacher, Pedagogy of Health and Physical Education

1. はじめに

運動・スポーツ・健康・安心安全などを専門に研究教育する本学において、伝統的に数多くの体育教員を輩出している。しかしながら、体育教員の免許状を取得することのみを目的として実際に教育現場に出て、教員になる学生数は、社会全体の傾向と同様に減少傾向を示している。さらに、体育教員養成に直接関係する教職課程における教科指導においては、免許状取得のみの学生と教員志望の学生では、授業に対する参加態度も大きく異なるように感じられる。また、本学の多くの学生が体育教員を志望しているにも関わらず、途中で諦める者も少なくない。

そこで本研究は、体育教員養成に大きく影響を及ぼすであろうと思われる体育教員志望学生が抱く体育教員の印象と理想とする体育教員像を明らかにすることによって、体育教員志望の学生が数多く教員になるためにどのような養成方法が望ましいのかを検討するものである。

理想とする教員像に対しては様々な対象や方法を用いて調査研究が行われている。山根ら(2010)は大学教育学部に在籍する学生を対象に「理想の教師像」を構成する因子を明らかにしようとしている。調査全体からは「子どもとのコミュニケーション力」や「子どもの変化に気づく力」などを重視していることを明らかにしている。さらに、志望している学校種によって異なり中・高校教諭志望者では「わかりやすい授業」が高い得点を示すのに対して、幼稚園教諭志望者においては「子どもとのコミュニケーション力」「誰に対しても笑顔で接する」という因子が高い得点を示したとしている。対象者の発達段階に応じて必要とされる能力が異なることがわかる。現役の教員を対象とした東ら(1996)の研究では理想の教員

¹仙台大学体育学部 特任教授 ²仙台大学体育学部 教授

が備えるべき資質として「教育技術」「子ども理解」「心身の健康」「教育姿勢」の4因子を抽出している。さらに、校長へのインタビュー調査からは「豊かな人間性や社会性」「コミュニケーション能力」が若い教員に求められる重要な資質であることを指摘している。校種別の分析からは幼・小学校校長は「責任感・探求心・自主的に学び続ける力」を、中・高等学校校長は「専門職としての高度な知識・技能」を重視していることが指摘されている。これらを総合すると「理想の教員像」を構成する要因は「高度な専門性を背景とした知識・技能」「対人能力を含む豊かな人間性」に特徴づけられるのではないかと推察される。保健体育教員の志望者を対象としている本研究においても高い専門性が必要とされる技術指導を伴う体育の指導と対人関係によって成立するスポーツ活動に取り組むことから先述の要素に対する重要性の認識が導かれることが予想される。

また、本研究の対象となる授業の受講者の中には免許状の取得のみを目的とする学生も散見されることは冒頭に記述した。志望動機の強さと志望理由との関連性についての調査（伊田, 2014）では、他者との関わり、学校という現場に対する愛着要因において教員が第一志望である学生の方が免許取得のみを希望する学生よりも統計的に有意に高い得点を示していることが示されている。受講の目的（ここでは教員になりたい、または免許取得のみを希望）によって教員に対する認識にも違いが生じる可能性があることが予測される。

これらの先行研究に対して、本研究は対象者の性質を明確にするために体育教員志望者（教員免許取得希望者を含む）に絞っていること、理想の教員像と現実を持っている教員に対するイメージそれぞれに対する分析を行っていること、質問用紙を用いず、自由記述を分析の対象としていることなどからより明確な授業に資するデータが得られるものと考えられる。

「授業に資する」とは、具体的には体育科教育論Ⅰを受講している学生の体育教員志望の程度を把握するとともに、何が体育教員になりたいという動機づけに関連しているかを明らかにすることによって、現実に抱いている体育教員にどのような印象と理想とする体育教員像の間の差が大きく影響しているのであればそれに対して正確な情報提供や豊富な事例の提示などといったアプローチが必要とされるなどの方法が考えられる。さらに、一つの科目にとどまらず、どのような指導養成が必要なのかを明らかにすることを目的としている。

2. 本論

2.1. 研究方法

本年度、体育教員免許状を取得しようとしている学生の志望の程度、体育教員の印象、理想とする体育教員像を把握するため、本学で開設し筆者が担当している「保健体育科教育論Ⅰ」を履修している学生にWebアンケートを実施した。

2.2. 調査内容

Webアンケートの内容は、体育教員の志望の程度を5件法（1:強く志望 2:やや志望 3:どちらとも 4:あまり志望しない 5:まったく志望しない）で、体育教員の印象及び理想とする体育教員像は200文字程度の自由記述とした。さらに属性として、学科、性別がわかるようにも設定した。

2.3. 調査対象

令和5年度「保健体育科教育論Ⅰ」を履修している仙台大学2年生 122名に調査Formを配信した。

2.4. 調査日時

令和6年1月17日 筆者が担当する「保健体育科教育論I」の授業時

2.5. 分析方法

学生に求めたレポートの自由記述に関する分析を行った。手順としては、Excelに入力された自由記述データに対して語彙抽出を実施した。分析にはKH Coder (ver. 2.00) を用いた。これは、計量テキスト分析を行うために開発されたフリーソフトウェアである。

次に特別な複合語（メンタル+トレーニングなど）はそれぞれ個別の単語として抽出されているため、これらを強制抽出対象として分析に加えた。さらに、その後の分析に用いる単語は出現頻度が10回以上の語とした。抽出された語彙の中から代名詞や指示語、助詞などを除いたものを分析の対象とした。

次に抽出された語による共起ネットワーク図を作成し、分析を行った。これは抽出した単語を用いて、同じ文の中に同時に用いられている確率が高い語句を線で結んだ図のことである。出現頻度を円の大きさに比例させた。

次にレポートに記載されているどの程度強く教員になることを志望しているかという質問項目に対する回答によって、自由記述部分に用いられている語彙にどのような違いがみられるかを明らかにするために対応分析を行った。対応分析はコレスポンデンス分析とも呼ばれ、クロス表（分析の対象となるテキストを表側に、出現した語彙を表頭に配置したもの）を作成した後、表側と表頭の関連性が最大になるように並び替える手順を繰り返す問題解決のアプローチであり、数量化Ⅲ類と数理的に同等の手法である。これを視覚化すると関連性の高い項目は近くに布置されることになる。また、出現頻度を円の大きさに比例させた。

具体的にはクロス表（本分析においては「あなたの体育教師への志望の程度について回答してください」という質問文に対して「強く志望している」から「まったく志望していない」までの5段階評価を表側、「抽出された語彙」を表頭に配したもの）を作成した後、表側と表頭の関連性が最大になるように並び替える手順を繰り返すものである。今回の場合は「志望の程度」によって出現する語彙がどう異なるのかを分析することが可能になる。

2.6. 調査結果

1) 抽出語彙の出現頻度と共起ネットワークを用いた抽出語句の関連性に関する分析

1-1) 現実の教員像

「あなたが、これまで指導を受けた体育の先生について、どのような印象を持っていますか。200文字程度に簡潔にまとめてください」という質問に対する自由記述回答に関する分析を行った。前文の中から抽出された語句は4,985語で、重複するもの（動詞の活用形なども同語とみなす）をまとめると964語となった。出現した頻度が高かった語句を列記すると、「先生」が217回、「生徒」が159回、「授業」が151回、「体育」が136回、「指導」が128回、「印象」が119回、「思う」66回、「多い」が61回。「人」が41回、「受ける」が41回であった。「印象」ということばが用いられている文脈を確認すると、「授業が楽しいという印象」「生徒のことを考えている印象」など教員やその授業に関する肯定的な文脈で用いられているものが多かったが、「ただ見ているだけという印象」「厳しくて怖いという印象」などどちらかと言えば否定的な文脈で用いられているものもあった。同様に「多い」は「できない生徒に寄り添う先生が多かった」

など肯定的な用いられ方もあった反面、「先生の指導は特になく、生徒同士が押し合っていることが多かった」などといった否定的な内容も含まれていた。

ここで抽出された語句に対して作成した共起ネットワーク図を示したのが図1である。ここでは「教師（教員）」「体育」「授業」「指導」「受ける」「印象」など質問文の中に用いられている単語やそれに類する語句は回答文中に質問文がそのまま引用されている可能性が高いため除いている。

図1の下方の「生徒」という語句に結びついている多くの語句は教員の印象に関して記述するために用いられている語句である。右上の「楽しい」や「ゲーム」などと結びついているのは体育の授業の楽しさに関連している語句の集まりと考えられる。また右側の「怪我」「安全」「コミュニケーション」「アドバイス」などは生徒に対する態度や配慮に関する語句の集まりであると考えることができる。このように体育の授業を担当した教員に対する印象では、「厳しい」「優しい」あるいは「運動」能力が「高い」などといった教員に対するイメージと体育の授業の楽しさ、生徒に対する配慮や個々の生徒への指導に関する記述が関連する要素として抽出されたことが明らかになった。

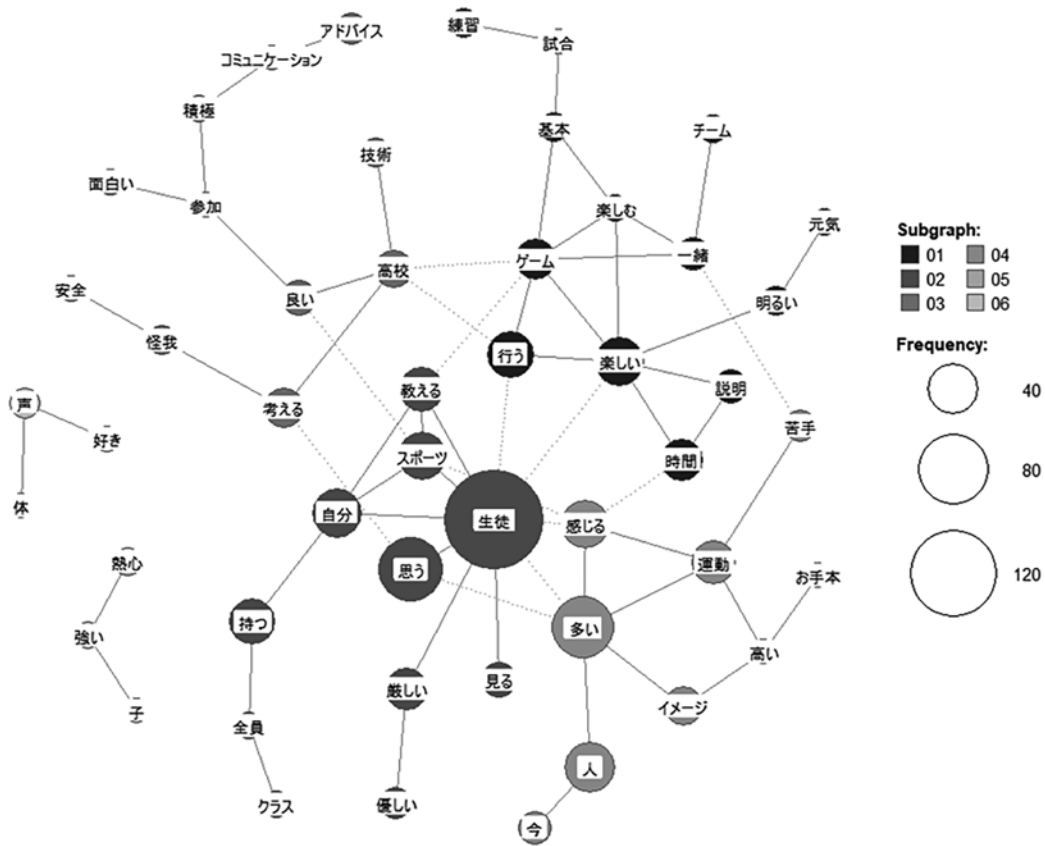


図1 「現実に体育授業を受けた教員の印象」において頻出した語句の共起ネットワーク図

1-2) 理想の教員像

「あなたが、理想とする体育の先生のイメージを200文字程度に簡潔にまとめてください」という質問に対する自由記述回答に関する分析を行った。前文の中から抽出された語句は4,843語で、重複するもの（動詞の活用形なども同語とみなす）をまとめると900語となった。

出現した頻度が高かった語句を列記すると、「生徒」が255回、「先生」が218回、「体育」が168回、「授業」が147回、「思う」が124回、「理想」が108回、「楽しい」71回、「指導」が61回、「スポーツ」が60回、「考える」が46回であった。

ここで抽出された語句に対して作成した共起ネットワーク図を示したのが図2である。ここでは「教師（教員）」「体育」「先生」「理想」「印象」など質問文の中に用いられている単語およびそれに類する語句は回答文中に質問文がそのまま引用されている可能性が高いため除いている。

図2の下方を見ると「生徒」のことを「思う」「楽しく」「一緒に」「行う」などといった授業をどのように運営するかという理想の授業運営に関する関連語句が見られる。その左側の「教える」「自分」「考える」などの語句は文脈を読み解くと自分が教えるとしたらという自我関与に関する語句の集まりであることが分かる。中央部は「運動」が「苦手」なひとが「出来る」ようになるといった指導技術に関する語句が見られる。さらにその右側には「技術」や「知識」などといった教員の専門性に関する語句があり、右上部には「コミュニケーション」「関係」などといった生徒との円滑な関係構築に関する語句が見られる。これらから、先行研究の概観からも分かるように、生徒との円滑な関係の構築や高い専門性に基づいた指導能力を理想の教員の条件とみていることが分かる。

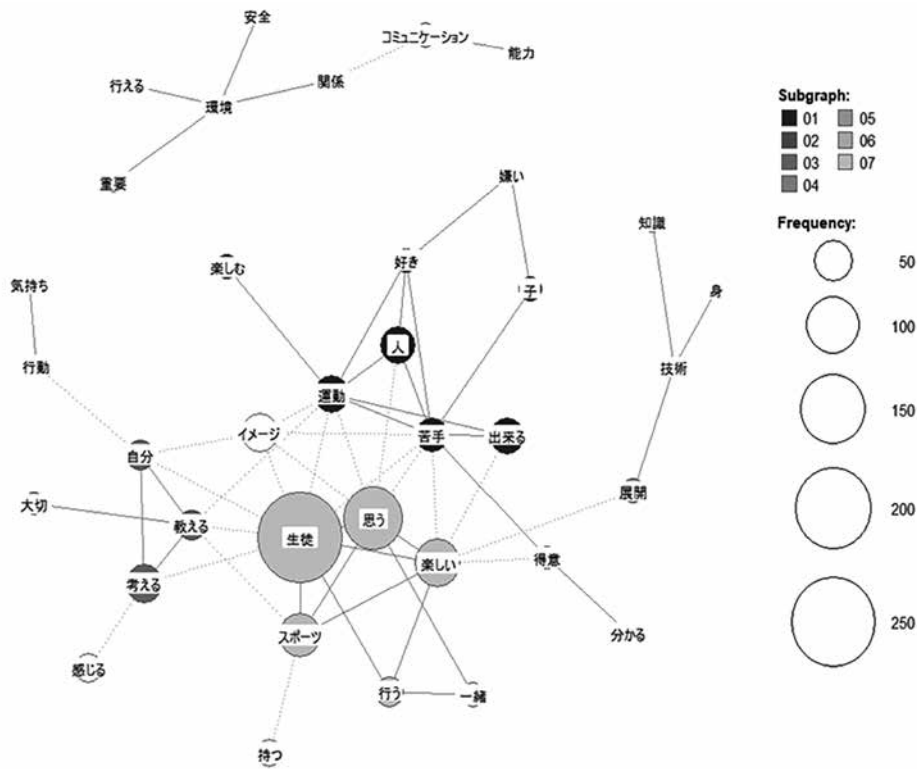


図2 「理想の体育教員のイメージ」において頻出した語句の共起ネットワーク図

2) 教員志望の程度と抽出語彙との対応分析

2-1) 現実の教員像

この分析では四角形で示された「強く志望している」から「まったく志望していない」までの5段階の評定で示された志望の強さの程度と現実に体験した体育の授業に関する自由記述

に現れた語句の関連性について示したものが図3である。先ほどの共起ネットワーク図と同様に同じ文脈上に現れる頻度が高く、関連性が強いものが近くに布置されるようになっている。選択された志望の強さの程度は「強く志望している」が36名、「やや志望している」が41名、「どちらともいえない」が19名、「あまり志望していない」が12名、「まったく志望していない」が2名となっており、志望に対して肯定的な反応を示している人数が否定的な態度を示す人数の5.5倍になっている。これは抽出された語彙数に直接反映することになり、この点は分析の前提として踏まえておかなければならない。

この図3から、「強く志望している」および「やや志望している」の近くには「怪我」「安全」「アドバイス」「教える」「ゲーム」「知識」「技術」などの語句が多く見られる。「あまり志望しない」および「まったく志望しない」は回答者数が少なく、少人数の記述が結果に直接反映されるため一般的な傾向とは言えないが、「楽しむ」「厳しい」「好き」という語句が見られる。

これらから教員を志望している学生は体育教員の教育技術や授業の態度について言及しており、志望していない学生は一般的な教員の印象について記述していることが多いということが見て取れる。

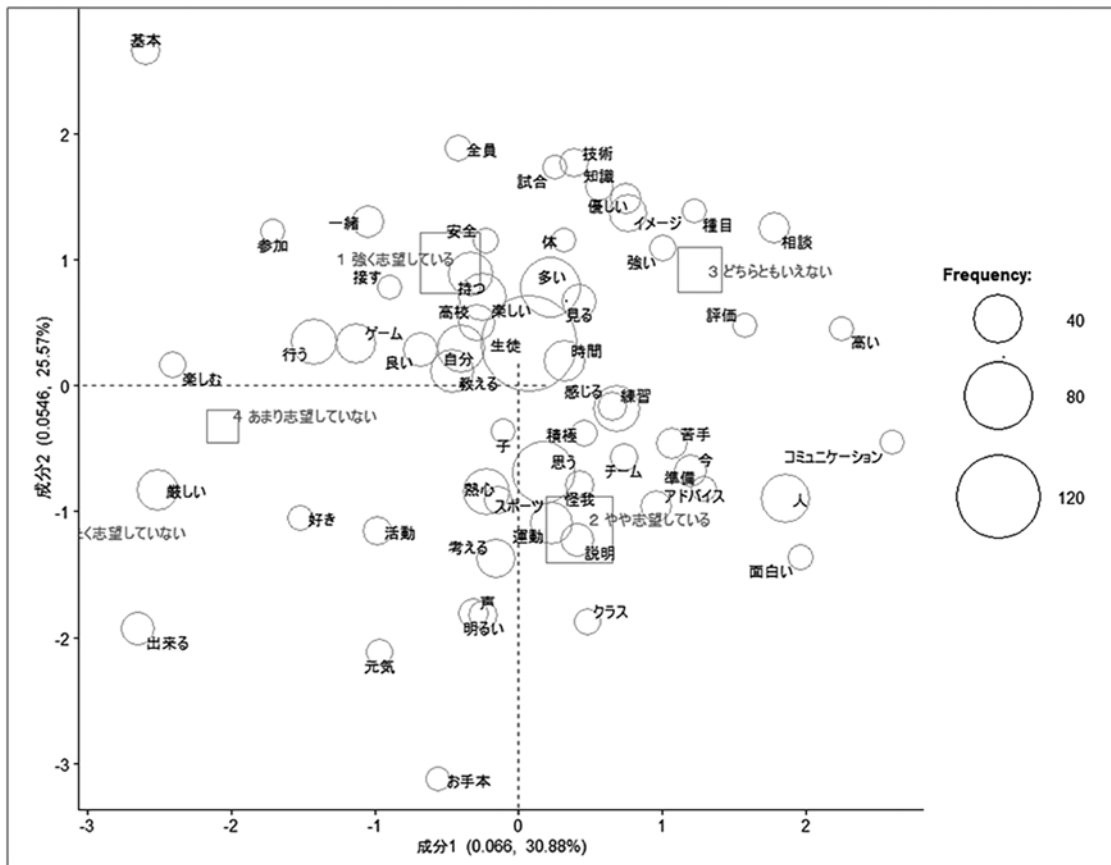


図3 教員志望の程度と「現実の教師像」において表出した語句との対応分析結果

2-2) 理想の教員像

この分析では四角形で示された「強く志望している」から「まったく志望していない」までの5段階の評定で示された志望の強さの程度と理想の教員像に関する自由記述の中に現れた語句の関連性について示したものが図4である。先ほどの共起ネットワーク図と同様に同じ文脈上に現れる頻度が高く、関連性が強いものが近くに布置されるようになっている。

この図4から、「強く志望している」および「やや志望している」の近くには非常に多くの語句が表出していることが分かる。これとは対照的に「あまり志望しない」および「まったく志望しない」は回答者数が少ないことが影響しているとも考えられるが、表出語彙数自体が大変少ないということが言えるだろう。「『運動』の嫌いな子に寄り添う」「『能力』に合わせて適切な指導をする」などといった理想の教員像を記述しているものの、表現に用いられる語彙数が非常に少ないということが見て取れる。

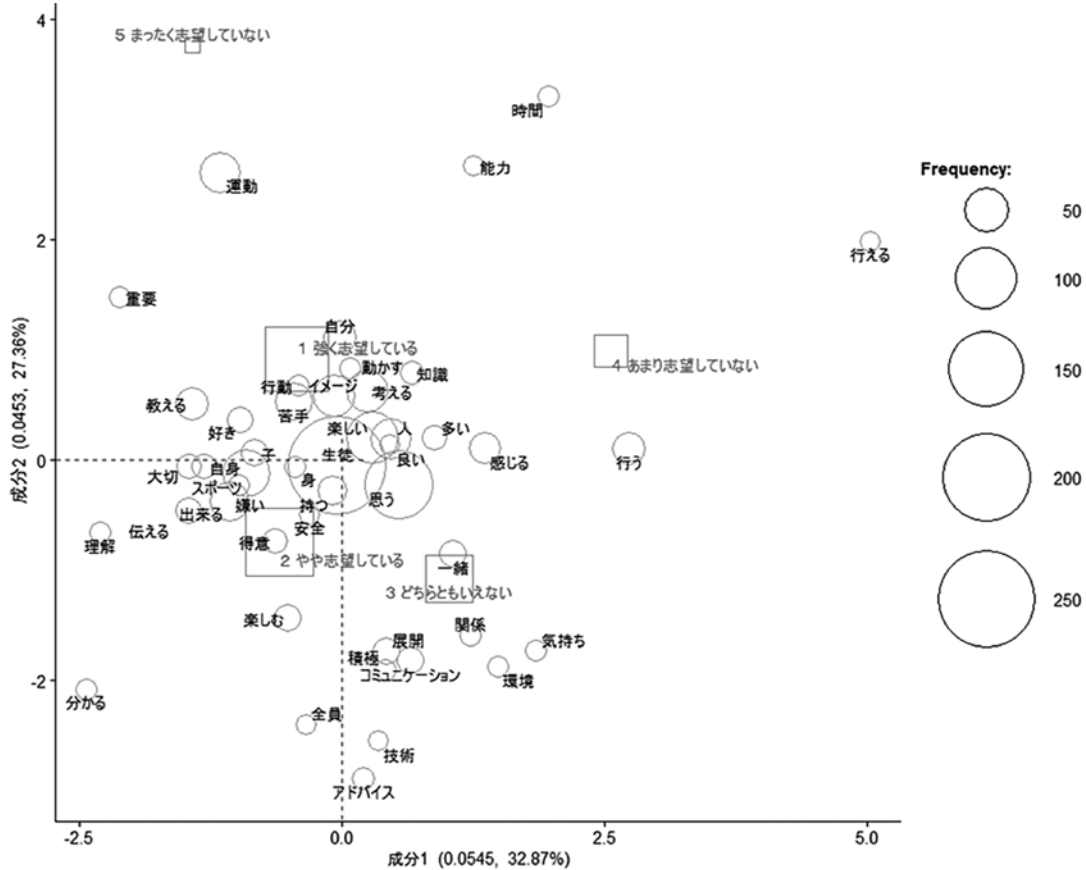


図4 教員志望の程度と「理想の教師像」において表出した語句との対応分析結果

3. 結論と今後の課題

ここまでの分析結果等をまとめると、体育教員を志望する学生において、実際に指導を受けた体育教員に対する印象と理想とする体育教員像には違いがあり、先行研究などでも示されているように「現実の体育教員の印象」は教員に対する「厳しい」とか「運動能力が高い」などと言った体育教員の資質に関するイメージが主となり、その他には「授業」や「指導」に対する一般的な印象を示している。また「理想とする体育教員像」は、「生徒のことを思う」や「楽しく行う」などの授業をどのようにマジメントしているかとか、体育の専門性とも言える「技術」「知識」「教える」などと言った技術指導に関することや、生徒との「コミュニケーション」などの人間関係の構築に関することを多くあげ、自ら指導を受けた体育教員の授業に取り組む姿勢などが反映されるようである。

次に、教員志望と「現実の体育教員の印象」、「理想とする体育教員像」との関係は、志望動機が高ければ多くの抽出語彙が示されていたように、関心が高いほど具体的に印象やイメージを描きやすい傾向にあると推察される。教員を志望している学生は「現実の体育

教員の印象」として、体育教員の技術指導や授業マネジメントに関心が高く、志望しない学生は教員の一般的な印象をあげるのみにとどまる傾向にあるようだ。さらに、教員を志望している学生は「理想とする体育教員像」として、「運動嫌いの生徒に寄り添う」「能力に応じた指導」などと言った保健体育科が抱えている今日的課題に対応する模範的対処方法をイメージしているように思われる。なお、志望していない学生から抽出した語彙が少なく「理想とする体育教員像」が描けない傾向にあると推察される。

これらのことから、体育教員の養成に当たっては、まず初めに体育教員を強く志望させることが重要であり、その次に保健体育科が抱える今日的な課題解決策に対応できるような実践的な指導力や専門性を育成していく教育課程を盛り込んだ授業を数多く展開する養成方法が望まれる。

なお、今後の課題として体育教員を志望せず教員免許状のみの取得を目指している学生に対する指導の在り方を検討していく必要がある。

参考文献

- 東和晃、秋葉英則（1996）教師の教職能力認知の研究-教師像の理想と現実のズレと指導観、子ども観の関係、大阪教育大学紀要第IV部門、第45巻1号、15-29
- 井上雅勝、落合ゆき、粟木一博（2023）体育系大学における教員志望学生の教員の資質の関する自己評価について、メディア情報科学研究、第1巻第2号：1-8
- 伊田勝憲（2004）教職志望動機測定尺度作成の試み—教師イメージ、個人的経験、理想とする教師像に着目して—、日本青年新学会第12回大会発表抄録集、28-29
- 伊藤ほか（2010）教職論第2版、教職問題研究会編、ミネルヴァ書房：京都
- 岡出ほか（2015）新版体育科教育学の現在、創文企画：東京
- 岡出美則、友添秀則、岩田靖（2021）体育科教育学入門、大修館書店：東京
- 佐藤晴雄（2018）教職概論第5次改訂版、学陽書房：東京
- 山根文男、古市裕一、本多功彦（2010）理想の教師像についての調査研究（1）大学生の考える理想の教師像、岡山大学教育実践総合センター紀要、第10巻、63-69
- 山根文男、本多功彦（2013）理想の教師像についての調査研究（2）学校長等のインタビューから、岡山大学教師教育開発センター紀要、第3巻、90-97